

I. 日 時： 平成28年1月25日（月） 10:00～12:00

II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室

II. 出席者： 神原委員長、片岡委員、藤井委員、花田委員、岡崎委員、森實アドバイザー
(事務局 井端事務局長、平田職員、竹苗職員)

III. 検討事項

今年度の本委員会の研究課題となっている世界基準を目指した歯科医学教育の提案として、健康医の育成を目指した他分野連携によるフォーラム型授業の構想について検討した。

まず事務局より、他委員会の動向として医学委員会の検討内容を紹介した。

- ① 医学委員会では、ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践事例について2月にアンケートを実施し、3月中に集計し、優れた事例を5月の総会で紹介することになっている。
- ② アンケートは、国公立大学の医学教育ユニットの会と本協会医学分野のサイバーFD研究員約2,000名にメールで送付する。
- ③ 医学でも世界基準を目指した教育が課題となっているが、現状では講座制中心の教育でアクティブ・ラーニングがあまり実施されておらず座学が中心となっている。そのため、本協会を通じてアクティブ・ラーニングの優れた事例を紹介し、大学間で共有することになっている。さらに、現在の医学教育で欠落している点など教育の振り返りも行うことにしている。
- ④ 医療では法律などの倫理観、社会保険制度など行政に関する知見が医師に求められているが、学内では人材不足などの問題から教育ができていないため、他職種連携によるフォーラム型教育によって、有識者の知見を学生が学び、新しい知の統合を図っていく訓練の必要性を事務局から医学委員会に提案しているが、あまり積極的ではないため、歯学委員会からぜひ提案を行い牽引していただきたい。

その他、世界レベルを目指し医療の質を高める提案の参考情報として、委員長より「医の未来」(矢崎義雄編、岩波新書)が紹介された。

次に、委員作成による他分野連携によるフォーラム型授業の構想が以下の通り提案された。

1. フォーラム型授業の提案

(1) 目的

- ① 厚生労働省の健康施策の実現のためその内容1)～4)の説明があり、従来の「臓器型」モデルから「全身健康管理型」モデルへの移行が必要であるとした。
 - 1) 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
 - 2) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底(NCDの予防)
 - 3) 社会生活を営むために必要な健康の維持及び向上
 - 4) 健康を支え、守るための社会環境の整備
- ② 特に「歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善」は歯科医師が責任をもって進めていくにあたり、口腔感染症(菌血症)、呼吸器疾患、循環器疾患、咀嚼機能不全および栄養障害がキーワードになる。
- ③ 上記実現のためコンピテンシーポリシーを持った教育が必須である。
- ④ 一般社会に周知を図り、これに歯科が関与することが目的となる。
- ⑤ このことにより、口腔の健康をしっかりと取り入れた地域包括ケアが実現できる。

(2) フォーラム型授業

地域の複雑な背景を有する高齢者の課題について多分野の学生間でWeb上で討論を行い、解決策を検討する。多職種の有識者は課題を形成して、関連するリソースビデオを提供する。学生は必要な情報を自ら収集する。既成概念に囚われない新たな発想と思考の枠組み作りを多職種と連携して課題解決を行う中で身につけていくことを目標とする。具体的には以下の流れをすべてWeb上で行う。

① 課題の提示

医療、福祉、保健、行政の他職種学生に地域の複雑な背景を有する高齢者の課題をWeb上で提示する。地域を特定し、「低栄養傾向の高齢者の増加」などを課題として、必要な情報は

学生に収集させる。

- ② リソース授業（ビデオ）の視聴
課題の解答に必要なリソース授業（ビデオ） and/or e-ラーニングを多職種や患者、住民が作成し、ライブラリー化する。視聴履歴は個々の学生について残す。
- ③ グループ内・グループ間ディスカッション（Web 掲示板）
物理的に離れた多分野の学生が同時に Web 掲示板上でディスカッションを行う。学生は様々な学部、学科が混ざるように7～8人のグループを形成する。ディスカッションへの参加状況も評価する。
- ④ グループで具体的な案を提案
グループで具体的な改善策を提案する。それぞれの学生は取り組みや学びについて e-ポートフォリオを活用して省察を行う。
- ⑤ 多職種の専門家による意見・評価（Web 掲示板）
専門有識者間で、最終的に意見、評価を行い、それを踏まえて最終案を学生グループが作成する。

2. 意見交換と今後の課題

フォーラム型授業の構想案について以下のように意見交換を行い、今後の課題を確認した。

(1) 意見交換

- ・本協会医療分野の医学以外の委員会では、看護分野では、栄養学と薬学と連携したアクティブ・ラーニングの対話集会を企画しているが、世界の流れを見ると、医師がこれまで行ってきたことの一部を看護が行うことも出てくるので、医学・歯学分野とも連携してぜひ検討していきたいとの意見が出ている。
- ・フォーラム型授業のアウトカムは、解のない問題に答えを見出す力をつけることになる。
- ・日本はクリティカル・シンキング（課題発見、共有、情報収集など多面的な視点での解決能力、視点の違いに気づくこと）のコンピテンシーが欧米よりもかなり低い。歯学部だけの教育よりも医・薬・看護などと連携すると多面的な視点での学びが行える。連携教育を通じて、自分の分野を他分野にきちんと説明できなければならないという各分野での責任感が生まれ、それが患者へ説明できる能力につながっていく。
- ・現在実施している多職種連携教育では、実際の治療とその結果しかないので、フォーラム型授業のように、リソースビデオや有識者からの意見・評価があると、一般的な現在の治療と理想的で一番よいと思われる案を最後に学生が知ることができ、学生の満足度が高くなると思われる。
- ・チーム医療が標準化されるためには、大学教育で実施するだけでなく、医療制度などの裏付けも必要。
- ・地域包括ケアの現場での問題は、医師、歯科医師、看護師が別々に訪問しているため、情報共有が連絡ノートなどでデジタル化されていない点である。ICTを活用しセキュリティを高めて検査データや画像データなどの情報を共有し、ディスカッションできるようになるとよい。同時に会議に出て一緒に行くことはコストがかかるのであれば、時差式の掲示板のようなもので、ある程度の相談ができる体制をとれる可能性はあると思う。特に地域の場合、それが重要である。
- ・北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学で、大学間連携の文科省のプロジェクトやっており、教員と一緒にワークショップを行い、ICT教材を作っている。学生達が連携するためには Moodle を活用し、相互にプロダクトを持たせ、掲示板を出し、チャットでディスカッションをした後で、Skype で最後発表会を行うというように、費用をかけずに実施することはできる。
- ・教員のFDとして、現場で必要とされていることを分野横断的な教育に反映していかないと教育の意味がないのではないか。
- ・多職種連携教育では、特に医療だけでなく地域・法律・経済など行政まで入ることも想定されるので、どのようなテーマ設定をするのが重要となる。
- ・課題を出すときに、地域は特定の地域ではなく、いくつもの地域があり、それを学生が共有できると、自分たちの考えと他の地域の考えの違いを共有でき、よい学びになる。

- ・現実に地域格差、健康格差がある中で、それをどう解消するかということを考えさせることが大切。
- ・現在の医療教育ではカリキュラムを作る際に学生を参加させるようになっているので、フォーラム型授業を行うにあたっては学生の意見を聞いたほうがよいのではないか。
- ・若者の知恵、年配者の知恵、中年の知恵、ジェンダーの知恵など、様々な知恵を入れながら作り上げていかないと、問題解決まで至らないのではないかと思う。
- ・医療がパターンリズムから脱却し、患者とともにコンセプト等を入れて患者が参加する医療ということをやっている、そのことと一緒だと思う。
- ・多職種連携教育では、学生は他分野の学生にわかるように説明できるスキルが要求され、これは重要な教育となる。卒業後にまったく自分と関係のない分野の人に説明しなければならないときの一つの訓練になる。また、分野によって言葉の定義が違うことがあるので、同じ土俵ですべての学生が議論できるような場を提供するコーディネート役が教員の役目である。そのため、教員も様々な分野で学ばなければならない。
- ・解のない問題について考えさせるために必要な知識を全体的に示す構図が必要ではないか。
- ・学生の職種、学生の種類だけ教員が揃って作らなければならない。フォーラム型授業の有識者によるリソースビデオ作りでは、かなり検討が必要で最初は大変だと思うが、経験する中でわかってくると思う。他分野のことは分からないので、課題を作っていく中である程度明らかになる。学生にそれをやらせてみないと分からないので、トライアルを繰り返しながら、不足部分を埋めていく。最初から緻密に全部やろうと思っても無理で、多少不完全でもトライアルから少しずつよいものを作っていくという考えもある。有識者には住民、行政も入ったほうがよいので、例えば東日本大震災後の取り組みなどは実例の一つになると思う。
- ・一番大事なのは知識ではなくて、視点の違いに気づくことではないか。
- ・その視点を基盤の目のように繋いでいき、自分はどのような立ち位置でどのような役割を果たさないといけないか自己管理することが重要ではないか。
- ・有識者のリソースビデオで課題づくりを意識していかなければならないが、教員側が思っていなかった課題を学生が見つけてくる場合もあるので、そのような意味でやってみないと分からないところがある。
- ・フォーラム型授業の最後は、将来的にどのようにしていけばよいのか学生が気づけば、それは将来、未来につながる教育になると思う。
- ・単科大学の場合、フォーラム型授業ができるのか。
- ・ICTを活用して、人材としては例えば非常勤講師、臨床教師などの方法で得ることもできるのではないか。

(2) 今後の課題

- ① 表現などを見直し、有識者をどのような人にするのか、予防、疾病、リハビリなどの視点から課題をどうするのか、地域の限定も含めてフォーラム型授業のさらに具体的なシナリオを作成する。
- ② 有識者は、患者の立場や教育上の視点から参加してもらいたい有識者を検討する。
- ③ 授業のねらいとして、知識の定着、知識の活用・創造についても描いておく必要がある。
- ④ 構想を作成した後で、医療系その他委員会も意見を伺う。
- ⑤ 説明資料の分量としては、資料①にもう1ページ追加し、3ページ程度とする。

3. 次回委員会

次回は、3月7日（月）10：00から開催し、歯学分野を中心とした健康医の育成を目指した他分野連携によるフォーラム型授業について継続して検討することにした。

以上